平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	防犯対策に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	2	1	11	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	安全対策課			
施策	232防犯対策の促進	担当課室長	渡邊　忠明			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	防犯灯維持管理費補助金、新設補助金の改定	③平成27年度に取組む改革・改善内容	新設時や修理交換時のLED灯導入の推進などにより、防犯灯設置の拡充や維持管理費負担の軽減を図る。
②①に基づく取組み結果	防犯灯維持管理費補助金については、電気料金分を全額補助対象とし、新設補助金については、LED灯設置に係る補助金の増額を行うよう交付基準を改定した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	○防犯灯補助金事業：市内自治会等の防犯灯管理団体 ○防犯協会補助金：鎌ケ谷市防犯協会	意図（対象をどうするのか）	○防犯灯補助事業：夜間の安全確保及び防犯活動の積極的な展開を図ることができる。 ○防犯協会補助事業：防犯協会による市域全体の防犯活動の充実を図ることができる。
②事務事業の概要		○防犯灯補助事業：市内自治会等の防犯灯管理団体が行う防犯灯の新設及び維持管理費に対し補助を行う。 ○防犯協会補助事業：防犯協会の事業に補助を行う。		
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）		防犯施策の推進により、市内の犯罪発生件数は前年に比べ185件減少しているが、今後も防犯対策を強化する上でも、市が積極的に関与する必要がある。		

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	防犯灯の整備により、犯罪の起こりにくい環境が整備されるとともに、市民が防犯協会と連携しながら、自主的な防犯活動が展開され防犯体制が整備された。 東中沢地区5台、東初富地区5台、道野辺中央地区5台、新鎌ケ谷駅周辺地区2台の合計17台の防犯カメラの適正な運用を行った。

②成果を表す指標		指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	刑法犯認知件数	1,314	1,399	1,214	件	業務取得
	ii						
	iii						

③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳		平成27年度予算
事業費（千円）	72,521	81,889	金額（千円）	内容	86,095
国支出金（千円）	1,374	889	66,143	防犯灯維持管理費補助金	
県支出金（千円）	84	75	2,500	防犯灯新設事業費補助金	
市債その他（千円）			5,835	防犯協会補助金	
一般財源（千円）	71,063	80,925			86,095

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	防犯灯管理団体における維持管理費負担が増加しており、負担軽減への対策を講じる必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	維持管理費の軽減や環境への配慮ため、防犯灯のLED化促進が求められている。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成26年度の計画		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績			0	当初	0	H25からの繰越	
				H25⇒26繰越			
③達成状況				補正		現年分	
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成27年度への繰越額（単位；千円）					

平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	夜間防犯パトロール事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	2	1		○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	安全対策課			
施策	232防犯対策の促進	担当課室長	渡邊　忠明			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	継続的に防犯体制の強化に努める。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	市民からの情報などにより、犯罪が起きやすい状況にある地域などのパトロールを重点的に巡回するようにする。
②①に基づく取組み結果	青色パトロール車2台、2人1組の計4人により市内全域のパトロールを実施し、不審者を発見した場合は、警察へ通報した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内で発生している犯罪	意図（対象をどうするのか）	犯罪のない安全で安心なまちづくりの実現を目指すため、犯罪の多い夜間にパトロールを実施することで、犯罪件数を減少させる。
②事務事業の概要	青色パトロール車2台、2人1組の計4人により市内全域のパトロールを実施する。また、不審者を発見した場合は、直ちに警察へ通報する。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	市内の犯罪発生件数の著しい増加は見られなくなっているが、安全で安心な生活環境を確保するため、今後も犯罪が起きやすい夜間のパトロールを継続していく必要がある。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	青色パトロール車2台、2人1組の計4人により市内全域のパトロールを実施し、13件の警察通報を行った。

②成果を表す指標		指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	刑法犯認知件数	1,314	1,399	1,214	件	業務取得
	ii						
	iii						

③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳		平成27年度予算
事業費（千円）	8,883	9,113	金額（千円）	内容	11,219
国支出金（千円）			9,113	夜間防犯パトロール委託	
県支出金（千円）	8,883				
市債その他（千円）					
一般財源（千円）		9,113	9,113		11,219

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	市内の刑法犯認知件数は減少傾向にあるが、空き巣などの侵入盗の件数が多い状況となっている。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	6精査・検証
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	安全で安心な生活環境を確保するため、犯罪の起きやすい夜間のパトロールを継続する必要がある					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成26年度の計画	青色パトロール車2台、2人1組の計4人による市内全域のパトロール	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	青色パトロール車2台、2人1組の計4人による市内全域のパトロール	11,154	9,113	当初	11,154	9,113	H25からの繰越
③達成状況	完了			H25⇒26繰越			
④未完了・非着手の理由				補正			現年分　9,113
				流用・充当	−2,041		
		平成27年度への繰越額（単位；千円）					